

News Release

Kanadevia
Technology for people and planet

カナデビア株式会社

2025年2月4日

朝霞和光資源循環組合（埼玉県）よりごみ広域処理施設整備・運営事業受注

カナデビア株式会社を代表とする企業グループ（以下、当グループ）は、このほど、朝霞和光資源循環組合（管理者：柴崎 光子 埼玉県和光市長、構成市：同県朝霞市・和光市）より、DBO（Design：設計／Build：建設／Operate：運営）方式によるごみ広域処理施設の整備・運営事業を受注しました。



【完成イメージ】

朝霞市と和光市では、それぞれ単独で保有する既存のごみ焼却施設の老朽化が進み、安定的かつ効率的なごみ処理体制の構築のため、広域化を図り、両市共同の施設を建設するための基本合意書を2018年に締結していました。

当グループは、本事業の「経済性・効率性を確保した施設」「安心かつ安全で安定性に優れ、長期稼働できる施設」「環境負荷が少なく、循環型社会の形成を推進する施設」「地域社会に貢献できる施設」「災害に対して強靱性を有する施設」という5つのコンセプトに基づき、新たなエネルギー回収型廃棄物処理施設（＝ストーカ式ごみ焼却発電施設、処理能力：175トン／日＝87.5トン／日×2炉）およびマテリアルリサイクル推進施設（処理能力：17トン／日）を和光市に建設し、完成後20年間の運営・維持管理も担います。受注においては、「処理システムの安定稼働」、「屋外配置動線」、「防災機能」を重視したことなどが特に高く評価されました。

建設予定のエネルギー回収型廃棄物処理施設では、可燃ごみを焼却処理し、排熱を用いた発電により自らの運転電力を賄うほか、余剰電力を売却することで事業費の抑制に努め、マテリアルリサイクル推進施設では、不燃ごみや粗大ごみを破碎・選別し、鉄やアルミなどの有価物を資源化するとともに、残渣類はエネルギー回収型廃棄物処理施設で熱回収を行い、環境に配慮しながら効率的に処理する計画です。

当社は 1965 年（昭和 40）年に日本初の本格的なごみ焼却発電施設を大阪市に納入して以来、グループ累計で国内 550 件以上の受注実績があります。今後も、廃棄物の衛生的な処理とエネルギーとしての活用を通じ、地域の資源循環に貢献してまいります。

なお、本件の概要は以下のとおりです。

1. 発注者：朝霞和光資源循環組合
 管理者：柴崎 光子 埼玉県和光市長
 構成市：同県朝霞市・和光市
2. 受注者：カナデビアグループ
 代表企業：カナデビア株式会社
 構成員：カナデビア環境サービス株式会社
 協力企業：五洋建設株式会社 関東営業所
 五十鈴建設株式会社
 中央産業株式会社
 株式会社ウイズウェイストジャパン
3. 建設地：埼玉県和光市新倉（和光市旧ごみ焼却場敷地を含むエリア）
4. 処理能力：エネルギー回収型廃棄物処理施設（ストーカ式 2 炉、計 175 トン／日）
 マテリアルリサイクル推進施設（17 トン／日）
5. 事業期間：2025 年 2 月～2030 年 3 月 設計・建設
 2030 年 4 月～2050 年 3 月 運営
6. 受注金額：494 億 8,900 万円（税込み）

（終）